高崎市文化財調査報告書第431集

飯塚単屋敷遺跡

－道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査－

２０１９

高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社毛野考古学研究所

高崎市文化財調査報告書第431集

飯塚単屋敷遺跡

－道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査－

２０１９

高 崎 市 教 育 委 員 会
有限会社毛野考古学研究所

調査区全景（南東から）

1号溝及びAs－B 下水田跡（西から）

例　　言

1．本書は、道路築造に伴う飯塚単屋敷遺跡（市遺跡番号747）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．「飯塚単屋敷遺跡」は、群馬県高崎市飯塚町字単屋敷706番地1・707番地に所在する。

3．発掘及び整理調査の期間・発掘調査の面積は次のとおりである。

【発掘調査期間】　平成30年 9 月18日～平成30年 9 月28日

【整理調査期間】　平成30年 9 月29日～平成31年 3 月25日

【発掘調査面積】　260㎡

4．発掘及び整理調査は、開発事業者である土地所有者、高崎市教育委員会、有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。

5．発掘及び整理調査に関わる経費は土地所有者の負担による。

6．発掘及び整理調査は、常深尚(有限会社毛野考古学研究所)が担当した。

7．本書の編集・執筆については、高崎市教育委員会文化財保護課と常深が協議して行い、第１章を高崎市教育委員会文化財保護課、第２～６章を常深が執筆した。

8．遺構及び遺物の写真は常深が撮影し、空中写真は小出拓磨(有限会社毛野考古学研究所)が撮影した。

9．調査資料は、一括して高崎市教育委員会で保管している。

10．発掘及び整理調査の参加者は、以下のとおりである。

（発掘調査）　岡庭秋男　鬼形敦子　清水隆二　永井述史　橋元裕児　松井昭光

（整理作業）　阿原智子　齋藤真琴

11．発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関にご協力賜わった。記して感謝申し上げる次第である（敬称略、順不同）。

カネコハウス㈲　積水ハウス㈱　㈲明総

凡　　例

1．挿図中に使用した方位は、国家座標（Ⅸ系）の北を表す。座標軸は世界測地系である。

2．本書ではテフラの呼称として次の記号を用いた。

As-A：1783（天明三）年噴出の浅間Ａテフラ

As-B：1108（天仁元）年噴出の浅間Ｂテフラ

As-C：3世紀終末から4世紀初頭噴出の浅間Ｃテフラ

Hr-FA：6世紀初頭噴出の榛名二ッ岳渋川テフラ

3．遺構及び遺物実測図の縮尺は次のとおりである。

【遺構】　全体図…1/400　水田跡…1/200・1/40　溝…1/200

【遺物】　土器…1/3

4．遺物番号は、実測図・観察表・写真図版ともに共通である。

5．本文・土層断面図・土層注記中のローマ数字は基本土層、算用数字は遺構内堆積土の層番号を表す。

6．土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著　㈶日本色彩研究所）を使用した。

目　　次

巻頭図版・例言・凡例・目次
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の立地と歴史的環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の方法と経過 …… 5
　第１節　調査の方法 …… 5
　第２節　調査の経過 …… 5
第４章　基本層序 …… 5
第５章　遺構と遺物 …… 6
　第１節　調査の概要 …… 6
　第２節　水田跡 …… 6
　第３節　溝 …… 8
第６章　調査成果 …… 10
抄録・写真図版・奥付

挿図目次

第１図　調査区域図 …… 1
第２図　飯塚単屋敷遺跡位置図 …… 2
第３図　飯塚単屋敷遺跡周辺の遺跡分布 …… 3
第４図　基本層序模式図 …… 5
第５図　水田跡断面図 …… 6
第６図　調査区全体図及び水田跡平面図 …… 7
第７図　１号溝平面図・断面図 …… 8
第８図　出土遺物図 …… 9
第９図　飯塚単屋敷遺跡周辺の中世城館 …… 10

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 4
第２表　出土遺物観察表 …… 9

写真図版目次

巻頭図版　調査区全景（空撮、南東から）
　　１号溝及び As－B 下水田跡（西から）
ＰＬ．１　調査区遠景（空撮、西から）
　　調査区全景（空撮、左が北）
ＰＬ．２　水田跡1～3号畦畔全景（北から）
　　１号溝全景（東から）
　　水田跡4号畦畔全景（東から）
　　水田跡5号畦畔全景（東から）
　　水田跡6号畦畔全景（東から）
　　水田跡7号畦畔全景（東から）
ＰＬ．３　水田跡1号畦畔土層断面（東から）
　　水田跡7号畦畔土層断面（東から）
　　水田跡下土層断面（東から）
　　出土遺物（1号溝出土馬歯）
　　出土遺物（1号溝及び水田跡）

第１章　調査に至る経緯

平成 29 年 12 月、土地所有者から、飯塚町において計画している共同住宅新築および宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である 16 B 04 遺跡に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 12 月 12 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、翌年 1 月 11 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の水田跡と水田に伴う畦畔を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「飯塚鼡屋敷遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 30 年 8 月 20 日に土地所有者と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に土地所有者・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

第１図　調査区域図（高崎市発行『高崎市都市計画基本図』1/2,500）

第２章　遺跡の立地と歴史的環境

第１節　地理的環境

飯塚鼡屋敷遺跡は群馬県南西部、高崎市飯塚町に所在し、JR 北高崎駅の北 400m 付近に位置する。本遺跡周辺は高崎台地と呼ばれる台地上にある。高崎台地は、約 2.1 万年前の浅間山噴火に伴う前橋泥流堆積物を基盤とする前橋台地の西方、烏川と井野川に挟まれた地域を指し、前橋泥流堆積物の上位には約 1.1 万年前に堆積した高崎泥流が堆積している。台地上は小河川が網目状に流れ、微高地と後背湿地が入り組んだ地形となる。本遺跡は、北東に広がる微高地の縁辺を北西から南東へと延びる後背湿地の北東岸にあり、標高は約 98m である。

第２節　歴史的環境

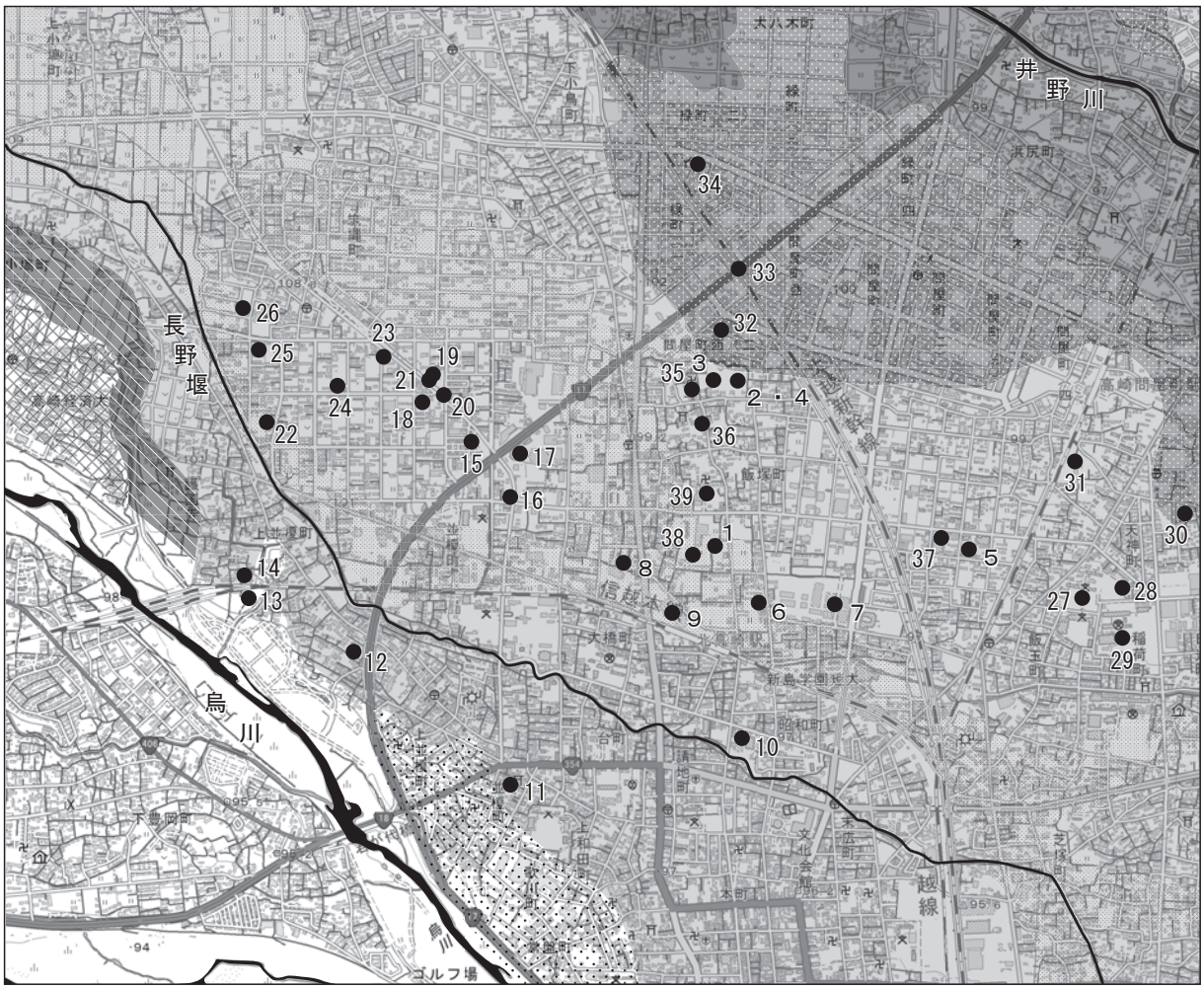
本遺跡周辺では旧石器時代から縄文時代の遺跡は顕著でなく、わずかに下小鳥遺跡（33）で縄文中期の遺物が出土している。弥生時代には遺構・遺物が確認されるようになり、稲荷町Ⅰ遺跡（28）で中期の住居を、問屋町西遺跡（32）では竜見町式土器を伴う遺構を検出している。本遺跡北側の微高地にある飯塚貝沢堀添遺跡（2 ～ 4）や、本遺跡西側の微高地にある上並榎屋敷前遺跡（12）・上並榎南遺跡（13）では中期後半～後期の竪穴住居・土坑・溝・包含層を検出している。As－C 下水田跡は並榎北遺跡（15・16）・上並榎下松遺跡（18・19）・上並榎御料所遺跡（23）で検出され、さらに、並榎北遺跡では As－C 下水田跡より古い水田跡の存在が指摘されている。

古墳時代の集落は、下小鳥遺跡（33）で前期の住居を検出したほか、烏川左岸の微高地にある並榎台原遺跡（11）・上並榎屋敷前遺跡（12）、本遺跡東側の微高地にある稲荷町Ⅰ遺跡（28）で後期の住居が確認されている。Hr－

第２図　飯塚鼡屋敷遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000 を 50％縮小）

FA やこれに伴う泥流下の水田跡は、本遺跡に近接する飯塚雁田Ⅱ遺跡（8）や飯塚大道東遺跡（9）のほか、並榎北遺跡（15・16）・並榎町Ⅰ遺跡（17）・上並榎下松遺跡（18 ～ 21）・上並榎御料所遺跡（23・24）で「極小区画水田」を検出している。本遺跡北方にある問屋町西遺跡（32）では、Hr－FA 下水田跡と Hr－FA 降下以後間もない時期の大型水路が検出されている。古墳は、5 世紀後半の大型前方後円墳である上並榎稲荷山古墳（22）が単独で築造されるほか、筑縄遺跡群（26）の円墳などがある。

奈良・平安時代の集落には、上並榎南遺跡（13）、筑縄遺跡群（26）、漆紙文書を出土した下小鳥遺跡（33）、飯塚十二前遺跡（37）などがあり、さらに貝沢･島遺跡（31）では古代瓦が、本遺跡に近接する飯塚村内遺跡（36）ではコップ形須恵器の出土が知られる。As－B 下水田跡は、本遺跡と同じ後背湿地に位置する飯塚西金井遺跡（6）・飯塚雁田Ⅱ遺跡（8）・飯塚大道東遺跡（9）を始め、本遺跡東方の微高地上の飯塚大苗代遺跡（5）・飯塚西金井Ⅱ遺跡（7）･飯玉Ⅰ･Ⅱ遺跡（27）･貝沢天神遺跡（30）、井野川低地帯の問屋町西遺跡（32）･下小鳥遺跡（33）･大八木水田遺跡（34）など、広範囲に調査されている。大八木水田遺跡（34）や、本遺跡西方の微高地上の並榎北遺跡（15・16）・並榎町Ⅰ遺跡（17）・上並榎下松遺跡（18 ～ 21）・上並榎御料所遺跡（23・24）では、条里地割に沿う大畦畔などが検出され、条里制水田の実態が明らかになってきている。



第３図　飯塚㐂屋敷遺跡周辺の遺跡分布（国土地理院発行 1/25,000 地形図『高崎』・『前橋』・『下室田』・『富岡』）

中世には、和田氏の居城である和田城が 15 世紀中頃から 16 世紀にかけて存続し、並榎城（14）・上飯塚城（35）・下之城・大類城といった支城が四囲に築かれた。本遺跡に近い上飯塚城（35）は、長野氏と対峙する和田氏の北の備えとして、永禄年間頃に築城されたとされる。飯塚堀添遺跡遺跡（2 ～ 4）では、上飯塚城の外堀・内堀と想定される溝や、掘立柱建物・井戸などが確認されている。また本遺跡の西には鼠屋敷（38）、北には長泉寺（39）が近接しており、いずれも上飯塚城と同時期の館跡とされている。

近世は、As－A 下の水田跡や As－A の処理坑が東町遺跡や栄町遺跡などで確認されている。本遺跡でも断面観察で As－A を充填した溝状遺構を検出している。

引用・参考文献　山崎一 1979『群馬県古城塁址の研究 補遺篇上巻』、高崎市 1996『高崎市史資料編 3 中世Ⅰ』

No.	遺跡名	主な時代・遺構・遺物	主 な 文 献
1	**飯塚鼡屋敷遺跡**	B 水田、中世溝	本書（市教委ほか第 431 集 2019『飯塚鼡屋敷遺跡』）
2	飯塚･貝沢堀添遺跡	弥生中期後半包含層・竪穴・土坑・溝、中世井戸・土坑・溝	市教委第 284 集 2011『飯塚・貝沢堀添遺跡』
3	飯塚貝沢堀添遺跡2	弥生中期後半包含層、中世城館（上飯塚城外堀・内堀）	市教委第 359 集 2016『飯塚貝沢堀添遺跡 2』
4	飯塚貝沢堀添遺跡3	弥生中期～後期包含層、中世掘立・溝・井戸・土坑	市教委ほか第 365 集 2016『飯塚・貝沢堀添遺跡 3』
5	飯塚大苗代遺跡	B 水田	市調査会第 67 集 1997『飯塚大苗代遺跡』
6	飯塚西金井遺跡	B 水田	市教委・市調査会 1994『飯塚西金井遺跡』
7	飯塚西金井Ⅱ遺跡	B 水田、中世土坑	市教委第 213 集 2007『飯塚西金井Ⅱ遺跡』
8	飯塚雁田Ⅱ遺跡	FA 水田、B 水田	市教委第 186 集 2003『飯塚雁田Ⅱ遺跡』
9	飯塚大道東遺跡	FA 洪水層下水田、B 水田	市遺跡調査会第 54 集 1996『飯塚大道東遺跡』
10	昭和町Ⅰ遺跡	B 水田	市教委・市調査会 1992『昭和町Ⅰ遺跡』
11	並榎台原遺跡	古墳後期住居	市教委第 112 集 1991『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』
12	上並榎屋敷前遺跡	弥生中期後半溝・後期土坑、古墳後期住居	市遺跡調査会 1992『上並榎屋敷前遺跡』
13	上並榎南遺跡	弥生中期～後期溝・土坑・住居、古墳中期溝、平安住居、中近世周濠・溝・柱穴群・井戸・土坑墓	群埋文ほか 1985『上並榎南遺跡』
14	並榎城址		
15	並榎北遺跡	C 以前水田、C 水田、FA 水田、B 水田	市教委第 84 集 1988『並榎北遺跡』
16	並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡	C 以前水田、C 水田、FA 水田、B 水田、中世溝・土坑、近世土坑	市教委第 144 集 1996『並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡』
17	並榎町Ⅰ遺跡	FA 水田、B 水田	市調査会第 83 集 2002『並榎町Ⅰ遺跡』
18	上並榎下松遺跡	C 水田、FA 水田、B 水田	市教委第 110 集 1991『上並榎下松遺跡』
19	上並榎下松Ⅱ遺跡	C 水田、FA 水田、B 水田	市教委第 124 集 1993『井野高縄遺跡 上並榎下松Ⅱ遺跡 石原鶴辺団地Ⅱ遺跡 飯塚東金井遺跡 埋蔵文化財展事業について 発掘調査概要』
20	上並榎下松遺跡3	C 混水田、FA 水田、B 水田、中世溝・ピット	市教委第 285 集 2011『上並榎・下松遺跡 3』
21	上並榎下松遺跡4	FA 水田、B 水田	市教委ほか第 375 集 2016『上並榎下松遺跡 4』
22	上並榎稲荷山古墳	前方後円墳、全長約 120m、舟形石棺	市調査会第 46 集 1995『上並榎稲荷山古墳』
23	上並榎御料所遺跡	C 水田、FA 水田、B 水田	市教委第 108 集 1990『上並榎御料所遺跡』
24	上並榎御料所Ⅱ遺跡	C 混水田、FA 水田、FP 水田、B 水田	市調査会第 65 集 1997『上並榎御料所Ⅱ遺跡』
25	上並榎八反田遺跡	B 水田、近世溝	市教委第 198 集 2005『上並榎八反田遺跡』
26	筑縄遺跡群	円墳、方形周溝墓、平安住居、B 水田	市教委第 50 集 1985『筑縄遺跡群』
27	飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡	B 水田	市教委第 161 集 1999『飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡』
28	稲荷町Ⅰ遺跡	弥生中期住居、古墳後期住居	市教委 1992『稲荷町Ⅰ遺跡』
29	稲荷町Ⅱ遺跡	古墳溝・埴輪、中世土坑、A 下水路と耕作痕	市教委第 142 集 1996『稲荷町Ⅱ遺跡』
30	貝沢･天神遺跡	B 水田、B 以降溝	市教委第 272 集 2010『貝沢・天神遺跡』
31	貝沢･島遺跡	古代溝・瓦、中世土坑・ピット	市教委ほか第 331 集 2014『貝沢・島遺跡』
32	問屋町西遺跡	弥生中期包蔵地、FA 水田、FA 後の水路、B 水田	市教委第 78 集 1987『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告』
33	下小鳥遺跡	縄文中期遺物、古墳前期住居、奈良平安住居・漆紙文書、B 水田	群埋文ほか 1991『下小鳥遺跡』
34	大八木水田遺跡	B 水田	市教委第 12 集 1979『大八木水田遺跡』
35	上飯塚城址	複郭（堀・土塁）、和田氏関連、永禄頃築城か	山崎一 1979『群馬県古城塁址の研究』補遺篇上巻 高崎市 1996『新編高崎市史』資料編 3 中世Ⅰ
36	飯塚村内遺跡	古墳時代畠、古代住居・ピット、中近世溝・土坑・ピット	市教委ほか第 411 集 2018『飯塚村内遺跡』
37	飯塚十二前遺跡	B 水田、奈良平安集落	高崎市 1998『飯塚十二前遺跡』
38	鼠屋敷	方形館（複郭）、16 世紀か	高崎市 1996『新編高崎市史』資料編 3 中世Ⅰ
39	長泉寺	方形館（複郭）、16 世紀か	高崎市 1996『新編高崎市史』資料編 3 中世Ⅰ

A=As－A、B=As－B、C=As－C、FA=Hr－FA、FP=Hr－FP、市教委＝高崎市教育委員会、市調査会＝高崎市遺跡調査会、群埋文＝公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第１表　周辺の遺跡一覧表

第３章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

表土掘削は重機を使用し、As－B（Ⅵ層）上面まで掘削した。Ⅵ層上面では As－B 降下以降の溝を、同所以外では As－B 下の水田跡を検出した。遺構の測量は、断面図を手実測（縮尺 1/20）、平面図を電子平板で行った。遺構の写真撮影は、35㎜モノクロ・カラーリバーサルのフィルムカメラとデジタルカメラを併用した。遺跡全景の空中写真はドローン（DJI 社 Phantom 2 Vision+）を使用して撮影した。

遺物注記は手書きにて行い、「747 SD01 №1」のように注記した。遺物の写真撮影はデジタルカメラ（Nikon D5500）を使用した（JPEG、RAW）。遺構図・遺物実測図・報告書作成ともに Adobe®Creative Suite® でデジタルトレース・編集等を実施し、印刷所には PDF 型式（X-1a;2001）で入稿した。

第２節　調査の経過

【９月】 18日：調査区域の設定と発掘器材の搬入。安全柵の設置。表土の重機掘削を行う。19日：重機掘削の終了。水田跡の畦畔と溝を検出する。20日：水田跡の調査を開始する。21日：溝の調査を開始する。27日：水田跡及び溝の調査を終了する。遺構測量を行う。28日：遺跡の空中写真撮影を行う。遺構測量を終了。高崎市教委文化財保護課による現地終了確認。下層のトレンチ掘削を行った後、発掘器材を撤収。

【10～12月】 出土遺物の洗浄･注記、報告書掲載遺物の写真撮影、遺構全体図の編纂、遺構写真図版作成を行う。

【１･２月】 報告書掲載遺物の実測・トレース、遺構図版作成、報告書原稿執筆を行う。
遺物図版作成、報告書編集を行う。報告書データを入稿し、校正を行う。

【３月】 報告書の印刷製本を行う。成果品の準備を行い、報告書とともに納品する。

第４章　基本層序

Ⅰ層　褐灰色土。表土。

Ⅱ層　灰黄褐色土。As－A多量に含む。

Ⅲ層　褐灰色土。やや粘土質。As－B 少量含む。

Ⅳ層　灰黄褐色土。砂質。As－B 少量含む。

Ⅴ層　灰褐色砂質土。As－B 多量に含む。

Ⅵ層　As－Bの一次堆積層。

Ⅶ層　黒色粘質土。As－B下水田跡の耕作土。

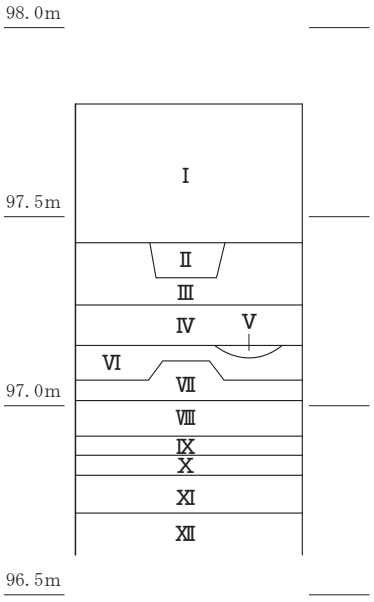
Ⅷ層　明褐灰色粘質土。Hr－FA の小ブロック混入。

Ⅸ層　Hr－FAの二次堆積層。

Ⅹ層　灰色粘質土。As－C少量含む。

Ⅺ層　黒色粘質土。As－C多く含む。

Ⅻ層　黒色粘質土。As－C含まない。



第４図　基本層序模式図(1/20)

第５章　遺構と遺物

第１節　調査の概要

Ｌ字に折れ曲がる調査区のうち、南北部分では As－Ｂ下の水田跡に伴う畦畔を検出した。東西部分では As－Ｂがほとんど残存せず、As－Ｂ以降の溝１条（1 号溝）を検出した（第６図）。ピット２基も As－Ｂ以降のものである。また調査区西壁断面では、As－Ｂ混土より上位に As－Ａを覆土とする断面逆台形の溝状遺構が連続して検出されており、As－Ａ降下後の復旧溝と考えられる。

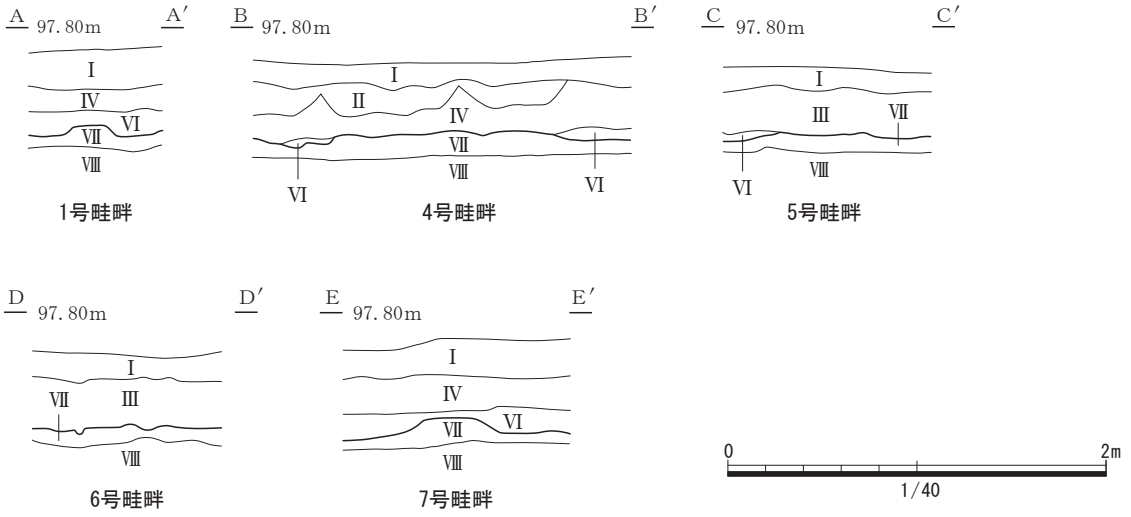
水田跡の調査終了後に、調査区南端にトレンチを入れ、As－Ｂより下の土層を確認した。そこでは Hr－FA の二次堆積層や As－Ｃ混黒色土が確認された。1 号溝の肩部でも同様の堆積がみられることから、これらの土層が調査区全体に広がっているとみられる。

遺物は水田面上から古代の土器片が、1 号溝からは古墳時代～中世の土器片が少量出土している。

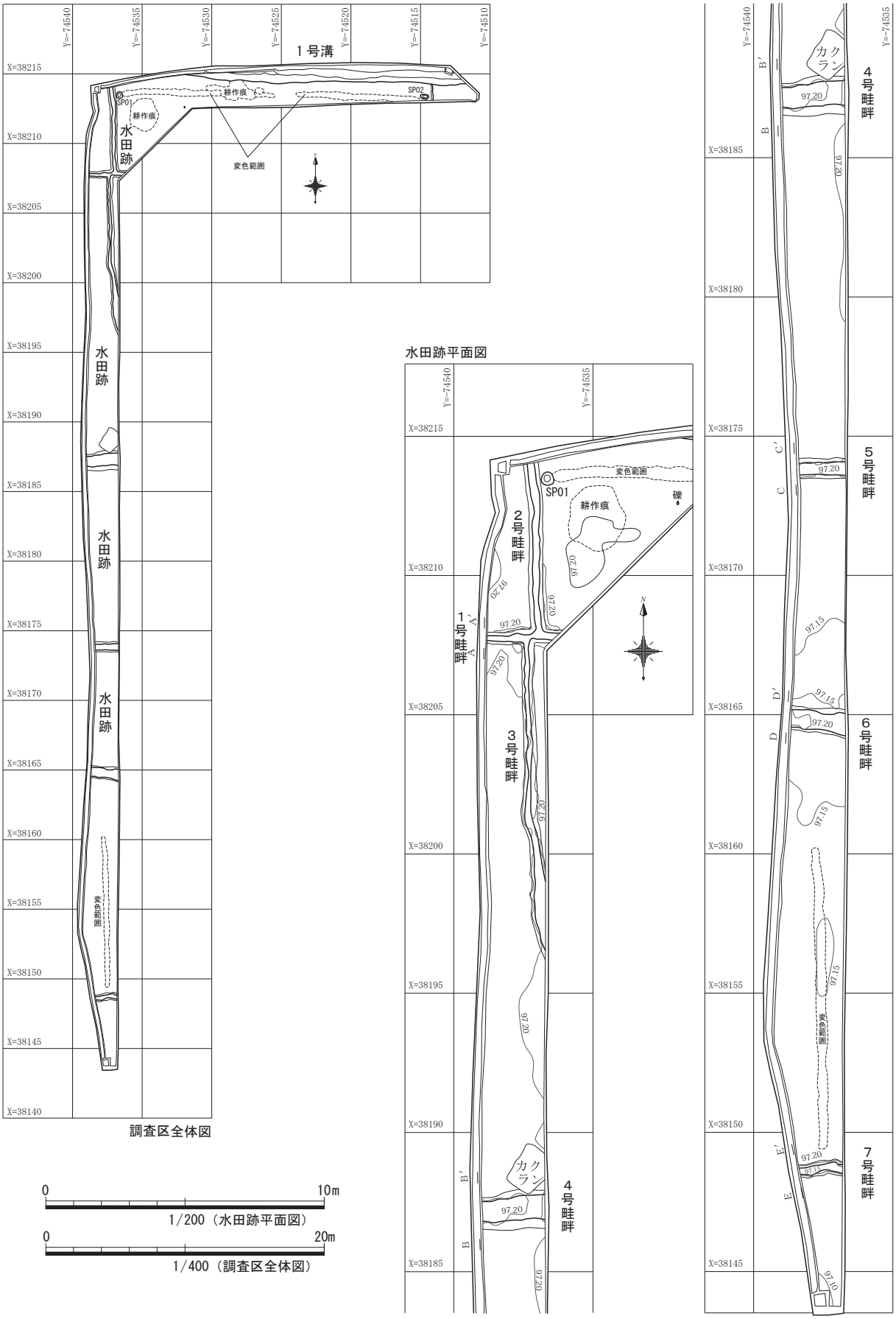
第２節　水田跡

As－B 下水田跡（第５・６・８図、ＰＬ.２・３）

As－Ｂ(Ⅵ層)の直下で検出した平安時代末の水田跡である。南北方向２条、東西方向５条の畦畔(1 ～ 7 号畦畔)と水田面を確認した。畦畔はほぼ東西南北に沿っているが、2･3 号畦畔は 3° 西へ、6 号畦畔は 6° 北へ振れている。畦畔の規模は、2・3 号畦畔と 1・7 号畦畔が下幅 51 ～ 57㎝と狭く、5・6 号畦畔は下幅 72 ～ 94㎝である。東西方向の 4 号畦畔は下幅 143㎝で規模が大きい。畦畔の高さは、頂部を As－Ｂに覆われる 1･7 号畦畔で 6 ～ 12㎝、頂部を削平された 4 号畦畔では 9㎝である。畦畔上面は足跡状の凹凸があるが、7 号畦畔だけは凹凸なく平坦である。調査区北東部には南北方向の 6㎝程度の段差があり、畦畔の痕跡の可能性がある。水口は確認されなかった。水田の耕作土であるⅦ層は概ね 10㎝の厚さがあるが、南ほど薄くなる傾向があり、7 号畦畔以南では 3㎝程度の場所もある。



第５図　水田跡断面図



第６図　調査区全体図及び水田跡平面図

水田面は全容のわかる区画はないが、南北幅が分かるのは１･４号畦畔間で 20.0m、４･５号畦畔間で 12.3m、５･６号畦畔間で 8.3m、６・７号畦畔間で 15.6m である。東西幅は２号畦畔と北東部の段差間で 22.7m である。水田面の標高は北端の 97.20m から南端の 97.10m まで緩やかに下がっている。水田面には足跡状の凹凸が散見される。調査区北側では耕作痕と思われる、やや深さのある凹凸が集中する範囲が２箇所ある。また、As－B の上面では帯状の変色範囲が２箇所確認され、鉄分が沈着したように赤茶けていた。As－B 降下以後の水田跡に伴う畦畔の痕跡の可能性があり、畦畔の方向性は As－B 下水田跡を踏襲している。

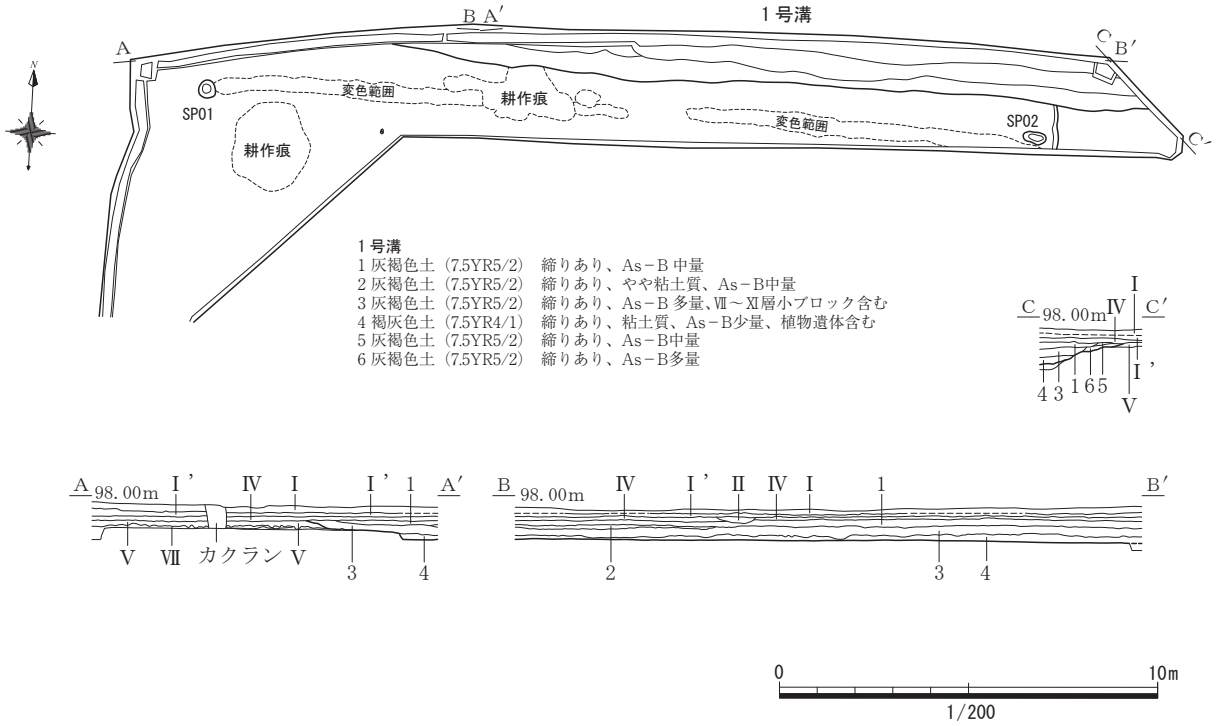
水田面からは、古代の土師器坏、須恵器坏・壺の小片が出土したほか、２号畦畔の東 5.1m 地点では 15㎝大の礫が出土した。須恵器壺（5）は１号溝出土の破片と接合したものである。

第３節　溝

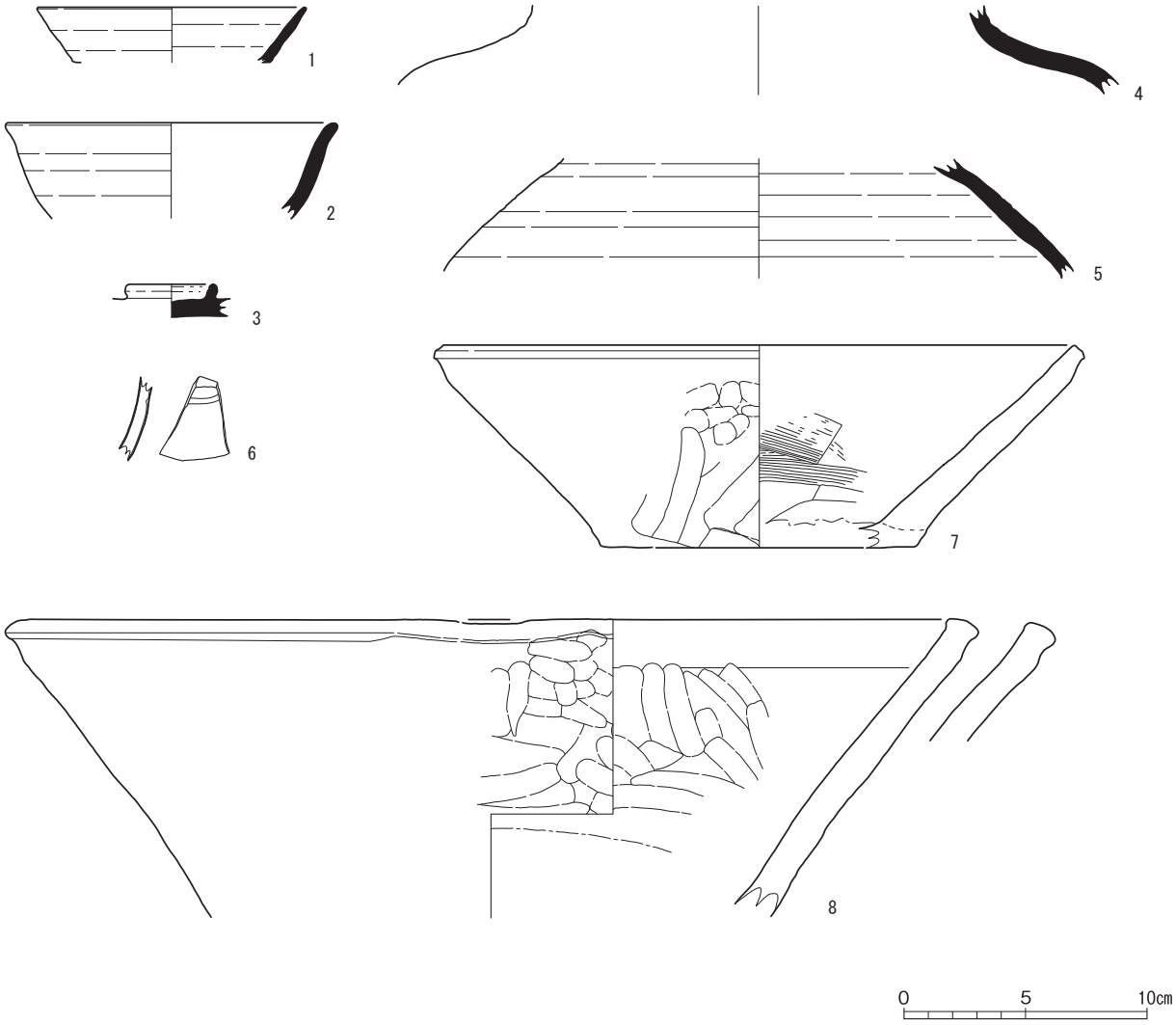
１号溝（第７･８図、ＰＬ．２･３）

１号溝は調査区北壁にかかる東西方向の溝である。溝の北辺は未検出であり、南辺も溝の底面まで達していない。As－B 混土（Ｖ層）の上面から掘り込まれている。南辺の方位はＮ－88°－Ｗを示すが、西端はやや北へ向いている。上幅は 1.4m 以上、深さは 75㎝以上である。断面形は緩やかに下がったあとに急角度で落ち込む。覆土は As－B を含む灰褐色土が主体となり、中層にはⅦ～Ⅺ層のブロック土が含まれる。下層は粘土質で、植物遺体を少量含む。

溝からは古墳時代後期の土師器坏、古代の土師器坏・甕、古代の須恵器坏・碗（2）・蓋（3）・甕（4）・壺（5）、中世の青磁（6）・瀬戸美濃擂鉢（7）・軟質陶器片口鉢（8）、馬歯（PL.3）が出土し、いずれも小片である。



第７図　１号溝平面図・断面図



第８図　出土遺物図

番号	出土遺構	器種	法量(cm)（推定値）[残存値]		①焼成 ②色調(内、外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位
1	水田面	須恵器坏	口径 底径 器高	(11.1) － [2.3]	①良好　②灰白 2.5Y7/1、灰白 2.5Y7/1 ③石英、白色粒 ④口縁部～体部 1/12	外面：口縁部～体部ロクロ整形 内面：口縁部～体部ロクロ整形	Ⅵ層直上
2	1号溝	須恵器碗	口径 底径 器高	(13.5) － [4.0]	①やや未還元　②にぶい黄橙 10YR6/4、浅黄橙 2.5Y7/3　③雲母、白色粒 ④口縁部～体部 1/12	外面：口縁部～体部ロクロ整形 内面：口縁部～体部ロクロ整形	覆土一括
3	1号溝	須恵器蓋	口径 底径 器高	－ － [1.4]	①良好　②黄灰 2.5Y6/1、灰白 N7/ ③白色粒、黒色噴出物 ④つまみ～頂部	外面：つまみ～頂部ロクロ整形 内面：頂部丁寧なナデ つまみ径 3.8cm、頂部外面に自然釉（重ね焼き痕）	覆土一括
4	1号溝	須恵器甕	口径 底径 器高	－ － [3.6]	①良好　②灰 N5/、灰 N4/ ③白色粒、黒色噴出物 ④頸部～肩部 1/8	外面：頸部～肩部ナデ 内面：頸部～肩部ナデ 頸部外面剥離痕（重ね焼き痕）、頸部～肩部外面降灰	覆土一括
5	水田面 1号溝	須恵器壺	口径 底径 器高	－ － [4.9]	①良好　②青灰 5B6/1、灰 N5/ ③白色粒、黒色噴出物 ④肩部 1/6	外面：肩部ロクロ整形 内面：肩部ロクロ整形 肩部外面降灰	Ⅵ層直上及び覆土一括
6	1号溝	青磁碗	口径 底径 器高	－ － [3.4]	①良好　②オリーブ灰 10Y5/2、オリーブ灰 10Y5/2　③黒色粒 ④体部 1/12	外面： 内面：	覆土一括
7	1号溝	瀬戸美濃擂鉢	口径 底径 器高	(26.7) (13.0) [8.4]	①良好　②褐 7.5YR4/4、にぶい褐 7.5YR5/4　③石英、黒色噴出物 ④口縁部～底部 1/12	外面：口縁部横ナデ、体部上半指頭圧痕、体部下半ヘラナデ 内面：口縁部横ナデ、体部下半摺り目 底部内面に自然釉	覆土一括
8	1号溝	軟質陶器片口鉢	口径 底径 器高	(30.0) － [12.3]	①酸化焔　②にぶい赤褐 5YR5/4、橙 5YR6/6　③石英、チャート、赤褐色粒 ④口縁部～体部 1/8	外面：口縁部横ナデ、体部指頭圧痕・指ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部上半指ナデ・下半ヘラナデ 口縁部内外面煤付着	覆土一括

第２表　出土遺物観察表

第６章　調査成果

今回の発掘調査では、平安時代末の水田跡と中世の溝に関する成果を得た。

平安時代末の水田跡は、飯塚西金井遺跡・飯塚雁田Ⅱ遺跡・飯塚大道東遺跡など、本遺跡と同じ後背湿地に立地する遺跡で検出されていた水田跡に連なるものと考えられる。この水田跡は、後背湿地の下流側にあたる飯塚大苗代遺跡や飯塚西金井Ⅱ遺跡など、微高地に分類される遺跡においても検出されており、相当の広がりが想定される。大八木水田遺跡や並榎地区の遺跡のような詳細な条里区画の検討には至っていないが、本遺跡の畦畔が東西南北の方位に沿うことや周辺の地割の様子から、当地にも条里区画が存在した可能性は十分に考えられる。長泉寺の南辺を東西に往来する道路は、並榎北遺跡で想定された条里区画に沿っているが、本遺跡の４号畦畔はその道路から南へ約 110m の位置にある。４号畦畔の幅が 1.43m と突出して大きいことから、４号畦畔が条里区画の東西大畦畔になる可能性を指摘しておきたい。本遺跡の水田跡の担い手としては、北東に隣接する微高地上にある飯塚村内遺跡や飯塚十二前遺跡の古代集落が想定される。

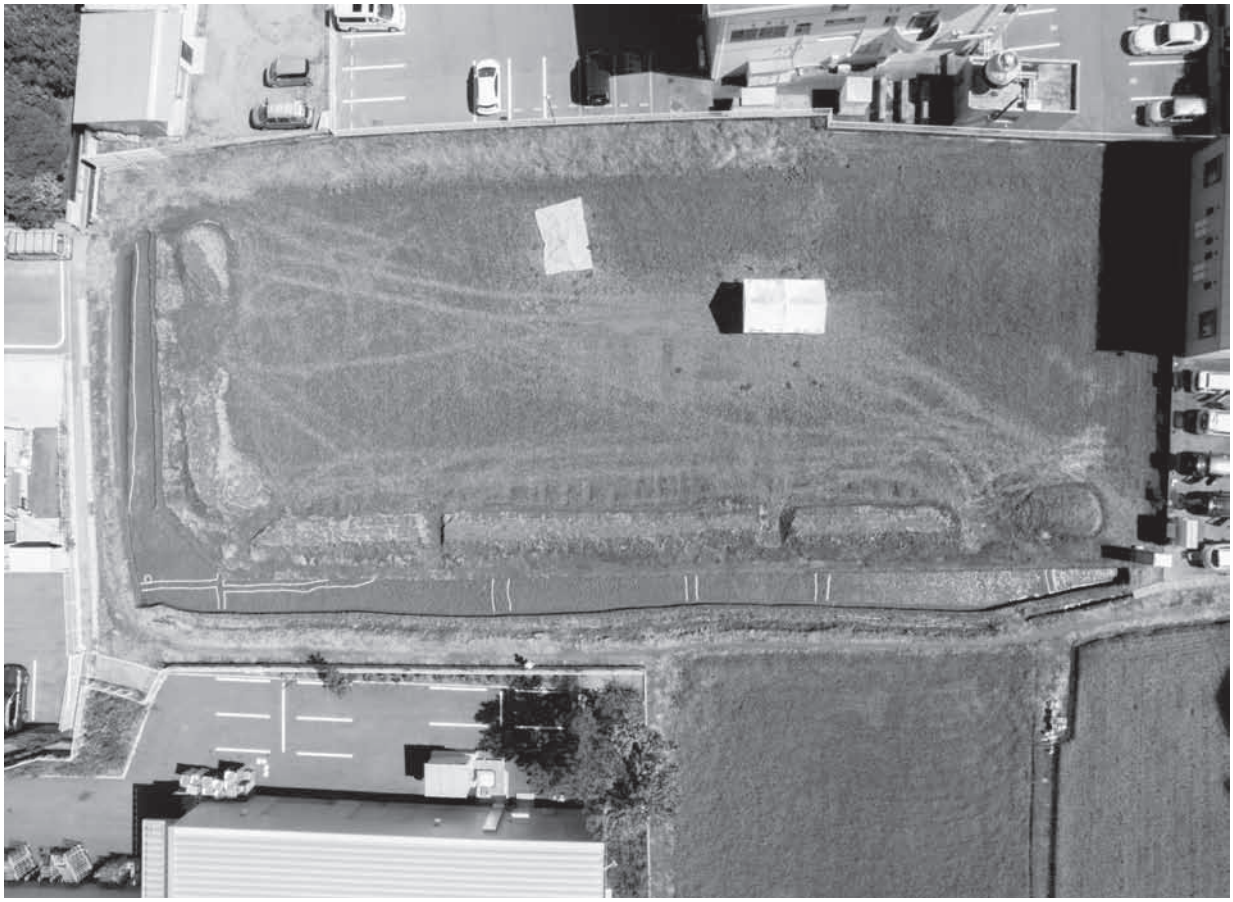
調査区南端で As－B 下水田跡より下の土層を確認したところ、Hr－FA の二次堆積層や As－C 混土層が認められた。調査区北端の１号溝の断面でも同様の土層が確認された。本遺跡と同一の後背湿地に立地する飯塚雁田Ⅱ遺跡や飯塚大道東遺跡では、Hr－FA 下ないし Hr－FA 洪水層下の水田跡が検出されていることから、本遺跡周辺においても同様の水田跡が存在する可能性がある。古墳時代後期の土師器片が１号溝に混入していたことも、その可能性を示している。As－C 混土層下水田跡の検出も含め、今後の調査では注意が必要であろう。

中世では、溝１条を検出した。１号溝は、調査区外にかかるため全容が明らかではないが、東西方向に延びる規模の大きな溝である。少量ながら16世紀代の遺物が出土し、調査区西隣りに想定されている16世紀代の館跡「鼠屋敷」の存在を考えれば、鼠屋敷と同時期の溝になる可能性が高い。鼠屋敷は、内郭を北東隅にもつ複郭の方形館で、ほぼ方一町の規模である。鼠屋敷の北西に隣接する墓地には中世の五輪塔があるとされる。１号溝は、この鼠屋敷の北辺に沿っており、館跡の北東隅に接続する可能性がある。調査区と鼠屋敷との間を南流する現在の小規模な用水路は、鼠屋敷の東辺の名残りと考えられる。この用水路脇の道は明治時代の地図に描かれており（第9図）、調査区付近で屈曲したのち、北側にある長泉寺の東辺を通過しながら、上飯塚城南辺中央へ延びている。鼠屋敷を意識した道の曲り方や方一町の地割に、既に消滅した鼠屋敷の存在を窺うことができる。１号溝と同じ位置に現代の用水路があることも、周辺の地割が中世まで遡る可能性を示している。なお、調査区は鼠屋敷からみて鬼門の方角にあたるが、１号溝からは馬歯が出土しており、馬を犠牲とした雨乞いなどの儀式が行われたことも考えられる。

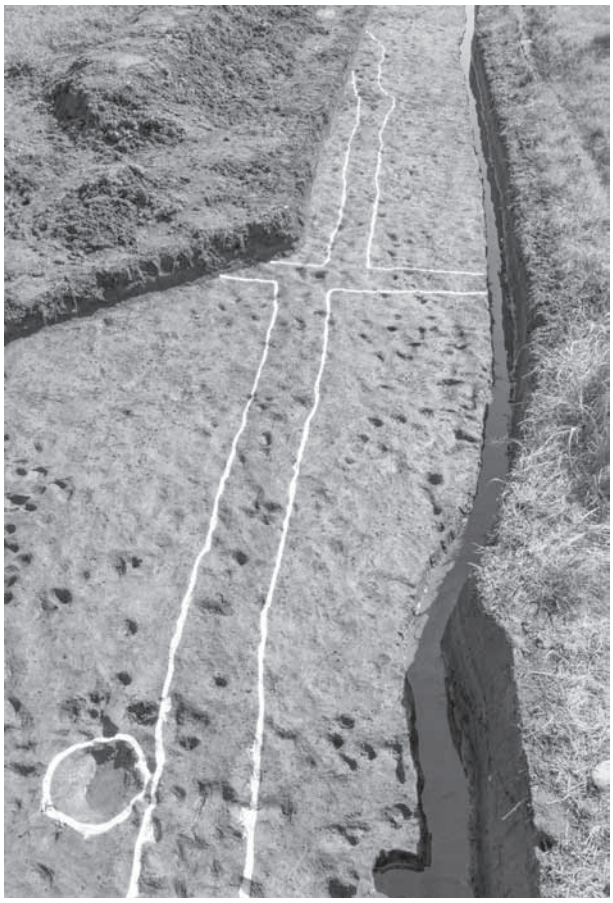
第９図　飯塚鼡屋敷遺跡周辺の中世城館
（明治前期測量２万分１フランス式彩色地図
『902 群馬県上野国群馬郡高崎駅』を加工）

引用・参考文献
山崎一 1979『群馬県古城塁址の研究 補遺篇上巻』
高崎市教委 1996『並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡』
高崎市 1996『高崎市史資料編３中世Ⅰ』

調査区遠景（空撮、西から）

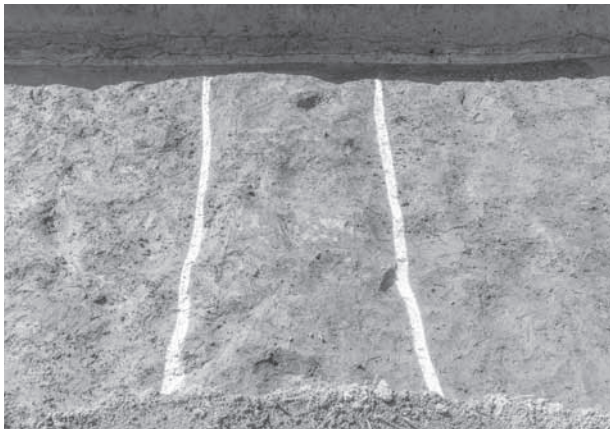


調査区全景（空撮、左が北）

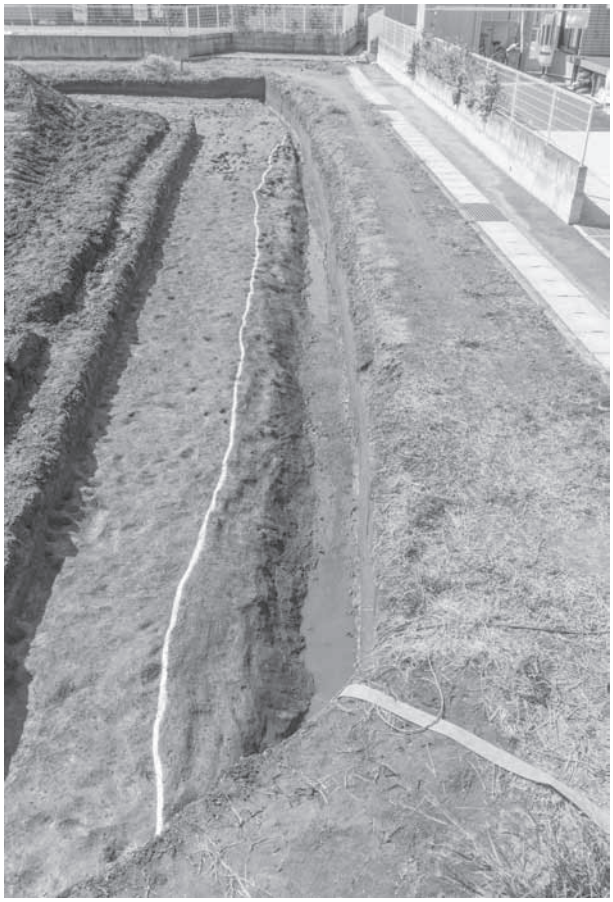


水田跡 1 ～ 3 号畦畔全景（北から）

水田跡 4 号畦畔全景（東から）



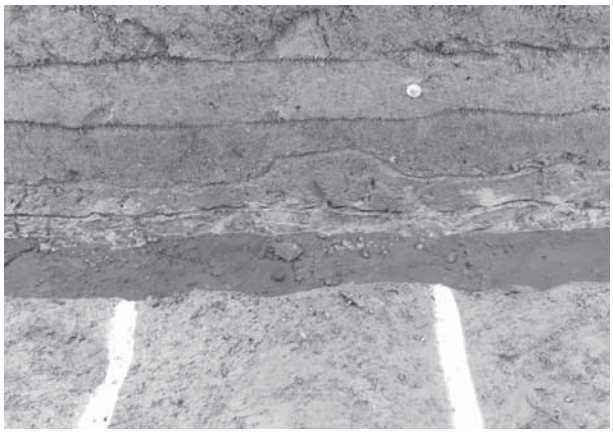
水田跡 5 号畦畔全景（東から）



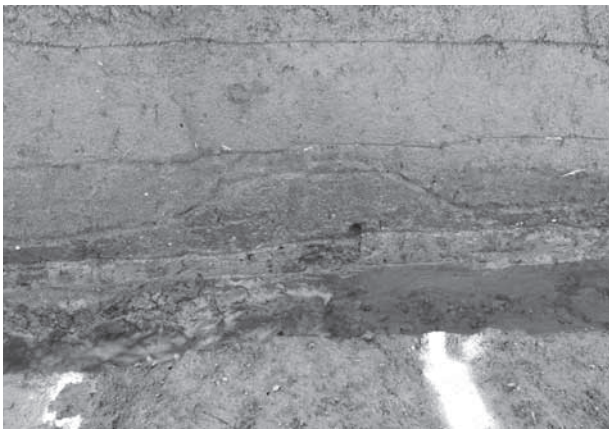
1 号溝全景（東から）

水田跡 6 号畦畔全景（東から）

水田跡 7 号畦畔全景（東から）



水田跡１号畦畔土層断面（東から）



水田跡７号畦畔土層断面（東から）

水田跡下土層断面（東から）

出土遺物（１号溝出土馬歯）

出土遺物（１号溝及び水田跡）

抄　録

フリガナ	イイヅカネズミヤシキイセキ
書名	飯塚鼡屋敷遺跡
副書名	道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第431集
編著者名	常深尚
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379-2146　群馬県前橋市公田町1002番地 1
発行機関	有限会社毛野考古学研究所
発行年月日	西暦2019年3月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いいづかねずみやしきいせき 飯塚鼡屋敷遺跡	ぐんまけんたかさきし 群馬県高崎市 いいづかまちあざねずみやしき 飯塚町字鼡屋敷	102020	747	36° 20′ 29″	139° 00′ 11″	20180918 ～ 20180928	260 ㎡	道路築造

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飯塚鼡屋敷遺跡	生産 城館	平安時代 中世	水田跡　1面 溝　1条 ピット　2基	土師器、須恵器 青磁、瀬戸美濃、軟質陶器、馬歯	As-B軽石に埋没した水田跡、「鼡屋敷」に関連する中世の溝を検出した。

高崎市文化財調査報告書第431集

飯塚鼡屋敷遺跡

2019年3月22日印刷
2019年3月25日発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1　電話 027(265)1804
発　行／有限会社毛野考古学研究所
印　刷／中村印刷工業株式会社
〒930-0039 富山県富山市東町2丁目3-22　電話 076-424-4616